

カリキュラム Curriculum	文学研究科MC		ナンバリング Numbering	
番号 Number	科目種別 / 学科目 Course title	転用科目 Substitute for		種別 Subject type
109	理論言語学 <Theoretical Linguistics>			講義
専攻 Major	担当教員 Instructor(s)		開講期 Semester	開講時間帯 Day and time
言語学	佐久間 淳一(SAKUMA Jun'ichi)		後期	金曜：4限
講義題目 Title	統語理論(B)			
単位 Credit	2			
備考 Others				
履修条件 注意事項 Requirements for registration	この授業は、前期の「統語理論(A)」と内容が連続しています。後期だけの受講も認めますが、できる限り、前期の「統語理論(A)」と合わせて受講してください。 なお、本授業で使用するテキストは、昨年度、同名の授業で使用したものと同じですが、昨年度の授業を受講していなくても受講できます。			
授業の目的 Purpose	この授業では、専門分野の研究方法に基づき、文献や資料を収集・分析し、そこから必要な情報を抽出し研究に活用する能力を身に着けるための取り組みの一環として、特定の統語理論を使って、実際の言語データを分析できるようになるとともに、分析結果に基づいて、分析に用いた統語理論を批判的に捉え直すことができるようになることを目指します。 The aim of this course is to explain linguistic phenomena in a syntactic framework and to reconsider the validity of the syntactic framework in question critically.			
授業の内容 授業の方法 Content	統語論研究では、分析の枠組みとして、さまざまな統語理論が提案されていますが、どの理論にも一長一短があり、完璧な理論は存在しません。一方で、実際の言語データを分析するには、何らかの枠組みに依拠する必要があります。統語理論は、分析結果からのフィードバックによって、改善されていくことになります。したがって、統語研究に取り組むには、何らかの理論的枠組みを身に付け、それを活用できるようになるとともに、その方法論を、常に批判的に捉える態度が必要です。本講義では、テキストの訳読を通して、そうした態度を身に着けることを目指します。 授業は、一回ごとに分担を決め、担当者が作ってきたレジュメをもとに進めます。また、必要に応じて課題を課すことがあります。後期は、前期に引き続き、テキストの第6章から読み進めます。 第6章 The lexical-constructional debate、第7章 Some battlegrounds in the theory warsでは、第5章でみたlexical approachとconstructional approachについて、具体的な言語事象に即して比較検討を行います。			
教科書 テキスト Textbooks	Wechsler, Stephen (2015) "Word Meaning and Syntax: Approaches to the Interface", Oxford University Press. 教科書は、授業時にコピーを配布します。			
参考書 References	授業中に適宜紹介します。			
受講生の 自宅学習 Preparation and review	毎回担当者を決めて発表してもらいますので、担当の人は担当箇所を読んで、レジュメを作ってください。レジュメは授業の前日までに提出してください。担当が当たっていない人も、議論に参加できるよう、該当箇所を読んでおいてください。また、課題が課された場合は、自宅での取り組み、次回の授業時に提出してください。			
成績評価の 方法と基準 Evaluation	レジュメ(20%)、課題(20%)、学期末レポート(60%)の合計で評価します。レジュメ、課題では、統語理論を理解し、その理論を使って実際の言語分析ができているかどうか、学期末のレポートでは、学んだ統語理論を批判的に捉えることができているかどうかを確認します。 なお、学期末レポートを提出しても、5回以上講義を欠席した場合は単位が認定できないので、注意してください。			
連絡方法 Contact information	事前にメール(jsakuma@lit.nagoya-u.ac.jp)をもらえれば、随時対応します。			